

平成二十四年度事業の概要

平成二十四年度「肥後医育塾」年間テーマ「女性のための医療」を開催

県民一人ひとりが豊かで健康的な生活を送れることを目指して、(公財)肥後医育振興会、(一財)化学及血清療法研究所および熊本日日新聞社の主催で、平成二十四年度も市民公開セミナー「肥後医育塾」を開催することになりました。「女性のための医療」を年間テーマとしました。

女性は一生を通じて、思春期、妊娠、出産、更年期などさまざまなライフステージを経るとともに、それに伴いホルモンバランスも大きく変わります。その影響からか、女性の罹患率が高い疾患や精神的な問題も見受けられるようです。そこで、今年度の肥後医育塾では、女性本人はもちろん、パートナーや家族としてどのように向き合うのか「メンタルヘルス」、「膠原病と免疫疾患」、「女性のがん」について考え、学んでいきます。

このテーマの下に、三回の公開セミナー(第四十六回から第四十八回)を行う予定にしております。総合司会は遠藤文夫肥後医育振興会常任理事(熊本大学大学院生命科学研究部教授)がとめることになっております。

このうち、第四十六回は七月十五日(日)に熊本テルサで開催いたしました。テーマは「女性のためのメンタルヘル

ス」といたしました。

女性は一生を通じて、思春期、妊娠、出産、更年期などさまざまなライフステージを経験します。そのなかで、身体的な変化だけでなく、気持ち的に不安になったり、悩んでしまったりすることもあるようです。そこで今回のセミナーでは、年齢や経験に伴う気持ちの変化、またそれを乗り切るためのヒント、相談窓口などについて学ぶとともに、女性本人はもちろん、パートナーや家族としてどのように向き合うのかなども含めて、四名の先生方に詳しくお話を伺いました。講演では池田学先生(熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学分野教授)に座長をお願いしました。

まず、特別講演として東京女子医科大学附属女性生涯健康センター所長・教授の加茂登志子先生から「女性と『うつ』との微妙な関係」を語り切るコソクと題して、更年期のうつを語り切るコソクと題して、女性と「うつ」の切っても切れない関係、ストレスに揺れ、月経前に揺れ、産後に揺れ、そして更年期にも揺れる女性のこころは、女性ホルモンが体調や気分に影響を与えており、うつのサインを見逃さず、人生を切り切るコソクについて講演をいただきました。内容の概要は次のとおりです。

メンタルにかかわる病気は、男性に多い疾患と、女性に多い疾患があると言われています。女性に多いのはうつ病や双

極性障害(そううつ病)などの気分障害で、うつ病の生涯罹患率は、男性が四・二%に対し、女性はその約二倍にあたる八・三%。女性の十二〜十三人に一人はうつ病を体験するという数値となっております。その他、パニック障害や外傷後ストレス障害(PTSD)などの不安障害も、女性の方がかかりやすいという統計が出ています。

私が務めているセンターの統計では、初診時に一番多いのが不安障害、二番目が気分障害、三番目が摂食障害や睡眠障害、四番目に統合失調症の順です。しかし詳しく調べてみると、不安障害の四三%が気分障害を、また気分障害の二二%が不安障害を合併していました。センターでは現在、不安障害と気分障害の二つが、取り組まなくてはいけない大きなテーマとなっております。

精神科を受診する年齢は、更年期の方が多いと思われるかもしれませんが、実は最も多いのは二十代から三十代。女性の精神疾患の原因や背景で多いのは、更年期や妊娠出産、月経、子育て、DV、性被害、不妊、夫の浮気などですが、最近では職場のハラスメントの相談も増えてきました。

女性特有のうつ病としては、月経前にうつ病の症状が出る月経前不快気分障害、出産後の産後うつ病、閉経期(更年期)のうつ病などがあります。こういう女性特有のうつ病はどんな性差から生じるのかという点、やはり一番に挙げられるのが性ホルモンです。性ホルモンが異なるのと、脳への影響も異なります。月経のサイクルのなかで、エストロゲンとプロゲ

ステロンという二つの性ホルモンが分泌されていますが、この二つの性ホルモンは子宮内以外の部分へもさまざまな影響を及ぼしています。脳も、もちろんその一つです。

次は、心理社会的性について。女性のストレスに関してお話ししたいと思えます。男性も女性も、学校を出て社会に出るまでは、社会人としてどう自立しているかという点ではそんなに大きな違いはありませんが、女性は二十代から三十代にかけて、子どもを生むか、仕事をどうするか、など選択肢が多様化します。

まず、就職したら社会の中で自分の立場を確立する時期ですが、これがうまくいかないと、摂食障害や自傷行為が起きてしまう場合があります。また「いつ子どもを生んだらいいの」と考えているうちに、出産のタイミングを見失い、不妊でつらい思いをすることもあります。

選択肢が多様化する中で、主婦の道を選んだ方は社会からの孤立感を抱え、子どもを生んだ後には、産後うつや育児ストレスの問題も。両立でがんばる人は、全部やろうとして疲れてしまう、独身であれば孤独感を持つなど、さまざまなケースがあります。さらに年を重ねれば、更年期や親の介護などの悩みも出てきます。

また、年齢に関係ありませんが、パートナー(男性)関係のストレスも少なくありません。DV(ドメスティックバイオレンス)も看過できない問題の一つで以前、日本ではDVは少ないと言われていましたが、ここ二十年ぐらいの調査では諸外国と同じように非常に多いと分か